

# 学校だより

11月号

港区立白金小学校

発行人 吉野 達雄

令和三年 十一月一日



日本一の学校

校長 吉野 達雄

学校経営方針に白金小学校を「日本一の学校にしたい」と書いています。日本一とは「〇〇ができる」のではなく、「今、目指せる最高の目標に向かって、日々全力を尽くしている学校」のことです。最近の子供たちの様子を見ていくとすでに日本一の学校になったのではないかと思うくらい様々な場面で、自分たちの持てる力を発揮している姿が見られます。先日の運動会はいかがでしたか。きつと保護者の皆様を感動させる演技・全力での短距離走だったのではないのでしょうか。当日はもちろんですが、それまでの練習に向かう姿勢、一人一人の努力、みんなで協力しようとする気持ち、すべてが素晴らしいです。運動会当日までを動画にまとめ、保護者の皆様にお見せしたいくらいです。特に感動したのは、自分だけでなくみんなで上手になりたいと、互いに教え合っていた姿です。「人間関係が希薄になった」、「他人を思いやる気持ちがない」などと言われる現代において、たしかに良好な人間関係を構築するのが苦手な子供もいます。そんな中でも互いのことを考え、行動できる白金小の子供たちは確実に育っています。

【伝えるべきか伝えないべきか・葛藤の中で考えを深める】

四年生の道徳の授業で「絵葉書と切手」という教材があります。友達から定形外の絵葉書が届いたけれども、切手の代金が不足していたという話です。皆さんなら、このことを友達に伝えますか。子供たちは、「友達のためにも教えてあげたほうがよい。」「言い方が難しいな。」「イヤな思いをさせるので伝えない方がいいのでは。」「など様々な意見を出し合い、考えを交流しました。様々な考えがある中で、一見、正反対に感じる意見にも共通しているところがありました。それは、友達のことを思いやつの考えであるということ。子供たちは「友達を大切に作る気持ち」を考え、「大切にする方法の一つではない」と気付きました。

本校は、このような素敵な心をもつ子供たちで溢れる、互いを思いやる日本一の学校を目指していきます。

「二人ひとりがかけがえのない存在です」

ふれあい（いじめ防止強化）月間

生活指導主任 戴田 真澄

今月は「ふれあい月間（いじめ防止強化月間）」です。本校では、十一月のふれあい月間の取組として、次の三点に取り組みます。

①担任以外の教員がアンケートを取ります。さらに、悩みなどの相談がある場合には、自分が話をしたい先生を選び、SOSを発信しやすいようにします。

②四年生以上は、ハイパーQも実施します。

③自身の行動を振り返り、相手の気持ちを考えられるようにします。

特に、子供たち自身が白金スタンダードを守って生活できているか、自分の生活を振り返ります。みんなが気持ちよく生活するための約束を守っているか自身で考えることが大切です。また、教員も自身の指導を振り返り、全教員が同じスタンスで子供たちへ指導ができるようにします。

いじめは、未然防止と早期発見が大切です。どの学級にも起こりうるという危機意識をもち、アンテナを高くして引き続き身を引き締めて参ります。

「登下校の仕方」について

最近、歩道を走り、歩行者にぶつかってしまったたり友達と寄り道をして家に帰る時刻が遅くなってしまったりする事が起きています。各学級で登下校中の約束や交通ルールなどについての指導をし、教員が下校時に見回ることとしています。「決められた通学路を歩いてまっすぐ帰る。」といった基本的な約束をご家庭で今一度お話いただくようお願いいたします。



白金小学校  
Twitter



学校HPからも  
入れます。